

上田西 初戦の相手は土浦日大

大会1日目 8月6日(日)開会式後の10:30~



号外

号外
発行
2023年8月5日
上田西高校
新聞委員会
編集局
編集局長：嶋田 晴佳
新聞委員長：樋口 華
水出 楓香
金井 茉優
レイアウト：樋口 華



住友総合グラウンドで調整練習を行う選手達の様子 写真提供=硬式野球部マネージャー

8月3日(木)に第105回全国高等学校野球選手権大会の組み合わせ抽選会が行われた。室費公費主将(進学3年)塩田(が引き当てた番手は1)のB。上田西高等学校の初戦の相手は茨城県代表の土浦日大(進学3年)高野に決まった。初戦は開会式後の開票試合となり、大会1日目の第1試合、10時30分より行われる。抽選会後に行われた主将インタビューにて室費主将は「一戦必勝でここまで戦ってきたため、それを変えることなく目の前の試合に全力でぶつかってきたい」と、真剣な表情を浮かべ意気込みを語った。

上田西の初戦の相手となる茨城県代表の土浦日大高校は5年ぶり5回目の夏の甲子園。茨城県大会の決勝では、3点を追う9回に打者一巡の猛攻を見せ5得点し逆転勝利を収めた。「粘り強い野球」を普段の練習から意識しており強みは上田西と同じく強力な投手陣。最速149kmのプロ注目目の右腕小森と最速144kmの左腕藤本の2枚看板を中心とした継投で、相手の打線を翻弄する。

攻撃では、ボールを見極め終盤に得点を重ねる「粘り強さ」が持ち味。打率5割超えの香取、太刀川の2人が中、心だが、



大観衆を前に鮮烈な甲子園デビューが期待されるプロ注目目の横山

見どころ 「粘り強い野球」多彩な投手擁す土浦日大 勝負のポイント 「終盤と先制点」

下位打線にも力のある選手が揃いどこからでも点が取れる。一方で上田西高校は「守り勝つ野球」を掲げエースで最速144kmの権田成也(進学3年)赤穂を中心に滝沢一樹(進学3年)上田第一)服部朔矢(進学3年)高杜)の3本柱が安定感をみせ鉄壁の守備陣がバックアップする。攻撃面ではプロ注目高校通算30本塁打を誇る3番横山聖哉(進学3年)上田第四)を中心に4番小林遼太郎(進学3年)丸子)、5番片平結絆(進学3年)丸子北)などパンチ力がある選手が中軸に揃っている。

また、県大会無失策の上田西とは対照的に、土浦日大は5失策。相手のは終盤の攻防。お互いに好投手を擁しているが、打者の目が慣れた終盤にゲームが動く可能性は高い。両チームとも複数の計算できる投手が揃っているため、継投のタイミングも重要になりそうだ。

第105回全国高等学校野球選手権記念大会 ベンチ入りメンバー

- | | | | |
|----|--------|----|--------|
| 1 | 権田 成也 | 3年 | 赤穂 |
| 2 | 岩下 俊輔 | 2年 | 緑ヶ丘 |
| 3 | 井出 涼太 | 3年 | 長野北部 |
| 4 | 小林 遼太郎 | 3年 | 丸子 |
| 5 | 片平 結絆 | 3年 | 丸子北 |
| 6 | 横山 聖哉 | 3年 | 上田第四 |
| 7 | 中村 太軌 | 3年 | 伊那東部 |
| 8 | 黒岩 大都 | 3年 | 高山 |
| 9 | 木次 志颯 | 3年 | 東御東部 |
| 10 | 服部 朔矢 | 3年 | 高杜 |
| 11 | 滝沢 一樹 | 3年 | 上田第一 |
| 12 | 田中 広翔 | 3年 | 墨坂 |
| 13 | 室賀 公貴 | 3年 | 塩田 |
| 14 | 水出 圭斗 | 3年 | 上田第四 |
| 15 | 田島 勇輝 | 3年 | 木曾日義 |
| 16 | 小林 誓悟 | 3年 | 赤穂 |
| 17 | 橋詰 利来 | 2年 | 丸子北 |
| 18 | 瀬山 皓登 | 3年 | 行田市立埼玉 |
| 19 | 西尾 静流 | 3年 | 裾花 |
| 20 | 伊達 阿莉 | 3年 | 飯田東 |

記録員 高田 健太郎 3年 埼玉鴻巣東
責任教師：大塚 雅也 監督：吉崎 琢朗

守り勝って流れをつかむ

守備

二一三まで無失策

守りから主導権を



上田西のエース権田 決勝戦では粘りの投球を見せ7回途中1失点と好投した



好守備で追加点を許さなかった黒岩

「上田西の理想の戦いは持ち味である投手が勝負できるボールを投げ、それを野手がバツクアップすること。県大会全体を通して点を取られてしまっこともあったが理想に近い試合展開ができた」と吉崎監督は県大会を振り返った。

中盤まで投手戦となった県大会決勝について捕手の岩下俊輔(進学2年)は「緑ヶ丘」は「3、4番を抑えること、その前にランナーを溜めないこと」を意識し「粘り強く点を取られても慌てないこと」を目標に試合に望んだという。決勝戦で先登を任されたエース権田は「絶対に抑えて甲子園に行きたい」とマウンドへ。初回に先制点を許したが、その後は追加点を

許さず7回途中を1失点で抑えた。

権田をリリーフした滝沢は2イニング目となった8回に連続四球と突如乱れる。ここで吉崎監督は選手権で一度も登板のなかった横山の起用を決断。「三振をとってほしい」と送り出したものの、松商打線の勢いを止めることはできなかった。しかし黒岩大(進学3年



リリーフで存在感を見せた滝沢

「高山」の好守備で3失点に収めると準決勝で完封勝利をあげた服部が登板。中1日の登板に「疲れはなかった」とした服部だったが松商打線の猛攻を受け2失点。最後はなんとか踏ん張り試合を締めた。

吉崎監督は初戦の千浦日大戦に向け「県大会と同じく守りで相手の流れを切って少ないチャンス

をものにしたい」、「勝ちを意識せずにワンプレーをベストなものにできるように心がけたい」と意気込む。

長野県大会は第1シードで臨んだため、スケジュール的にも余裕があり体力面での消耗は抑えられた。真夏の甲子園で「守り勝つ野球」の真価が問われる。

(水出 楓香)



県大会準決勝では完封勝利を取めた左腕服部

繋がりに出したら止まらない

攻撃

好打者ずらり

どこからでも得点を



上田西の切り込み隊長中村は決勝戦では3安打と躍動し、甲子園でも活躍が期待される

今春の県大会王者で

第1シードの上田西は甲子園への切符を掴み取った。どの打順からでも点が取れることが

このチームの特徴。今大会、序盤では大量得点で波に乗り、コールドで勝利していたが、4回戦以降は、一転して守り勝つ展開が増えた。下位打線の木次志颯(進学3年)東御東部(や岩下の活躍もあり得点する場面もあったが、チャンスであと

1本が出ない場面も多くみられた。

決勝では先制を許したが、早い段階で横山のタイムリーヒットで同点に。8回表に勝ち越しを許すが、その裏「自分が塁に出れば変わると思った」と話す1番中村太軌(進学3年)伊那東部(が)しごとく左前に運



俊足で内野安打を勝ち取り感情を爆発させる木次、選球眼もよく出塁率も高い

頼れる主将 途中交代で存在感

決勝戦8回表から守備で途中出場した主将の室賀が松商に傾きかけた流れを変えた。

まずは先頭打者が放った1、2塁間の強烈なゴロを横っ飛びで好捕。その裏の逆転後には追加点の

ぶと2番黒石も右前打で続き無死1、2塁の好機を作る。1死後、「1、2番が繋いでくれたこの場面で自分が絶対打たなくては」と打率1割台で不振にあえぐ4番小林が左越え2点適時2塁打を放ち1点差とした。なおチャンスで迎える打者はここまで全試合でヒット

を打っている片平。「熱い思いが伝わり期待に応えたかった」と2球目のスライダーを捉えると、打球はぐんぐん伸び左翼席へ消える逆転2点本塁打。その後も中村の2点適時打で追加点を奪うなど久しぶりに打線が繋がりを見せた。

起点となる左翼線2塁打を放ち意地をみせた。「初戦からずっと出番が来ないかな」と思っていたため、行くぞと言われた時はやっとかという気持ちも楽しみ。緊張よりは長く試合に出られる喜びを感じながらも気合を入れた。非常にわくわくしていた。打席では、前に片平がホームランを

打ってランナーを返してくれていたため気が楽だった」と話した。



8回裏、追加点の口火を切った室賀

甲子園では開幕カードを引き当てた室賀主将。「開幕戦ということで変に間延びせずに試合ができる。みんなわくわくしている」と意気込んだ。途中交代も試合の見どころになりそう。

甲子園では開幕カードを引き当てた室賀主将。「開幕戦ということで変に間延びせずに試合ができる。みんなわくわくしている」と意気込んだ。途中交代も試合の見どころになりそう。

(水出 楓香)

軌跡 夏の甲子園へ 8年ぶり3度目



優勝を決めマウンド付近で喜びを爆発させる上田西高校の選手達



試合後の記念撮影の様子

2回戦

伊那弥生ヶ丘	2	0	0	0	0	0	×	×	2
上田西	0	0	0	4	0	5	×	×	9

3回戦

岩村田	0	0	1	0	×	×	×	×	1
上田西	0	2	2	3	4	×	×	×	11

4回戦

塩尻志学館	0	0	0	0	2	0	0	0	2
上田西	0	1	1	0	1	0	1	×	4

準々決勝

東海大諏訪	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上田西	1	0	0	1	0	0	0	×	2

準決勝

ウェルネス	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上田西	0	0	0	2	0	1	0	×	3

決勝

松商学園	1	0	0	0	0	0	3	2	6
上田西	0	0	1	0	0	0	0	×	7



胴上げされる吉崎監督



試合後表彰式の様子